

### 「ふるさと応援寄附金等によるNPO等指定寄附事業」の意義

質問者 池谷 大輔 (自民党)

ふるさと納税制度の趣旨をふまえた、ふるさと応援寄附金等によるNPO等指定寄附事業に取り組む意義は。

**【答弁】** 本事業は、ふるさと寄附金の使い道を、地域貢献に取り組むNPO等の活動にも広げることで、NPO等が抱える課題を解決し、その活動を活性化できる仕組みで、全国的にも画期的な取組である。ふるさと納税制度の「一人ひとりの貢献が地方を変え、より良い未来をつくる」という趣旨にも合致しており、NPO等の資金調達支援だけでなく、ふるさと納税制度の広報力により、活動の魅力が広く社会に知られ、NPO等の人材確保にもつながることを期待している。本事業を通じて、地域貢献に取り組むNPO等を力強く後押しし、市民主体のまちづくりを実現する起爆剤としたい。

#### 語句説明

#### ふるさと応援寄附金等によるNPO等指定寄附事業

市内に事務所があるNPO法人や学(地)区連合自治組織等を対象に、地域活動にかかる費用を支援するための財源として寄附金を募集するもの。

#### 語句説明

#### 廃棄物減量等推進員

ごみの減量化及び資源化並びに環境美化について、地域と連携し、市民の廃棄物処理に対する意識の高揚を図ることを目的とし、自治会・町内会から推薦を受け、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき市から委嘱された者。

### 静岡大学将来構想の協議

質問者 松谷 清 (緑の党)

先に設置した静岡大学将来構想協議会の設置要項では、現在大学側が検討している法人統合や大学再編等について協議会としてゼロベースで議論を行うとされているが、これは静岡大学における平成31年3月の統合再編の意思決定を転換する可能性も含めたものか。

また、設置要項には必要に応じてその他の関係者にも協力を求めるとあるが、統合再編の相手方である浜松医科大学等の関係者から意見聴取を行うことはあるか。

**【答弁】** 第1回協議会での静岡大学副学長・丹沢委員からの「学長が説明した大学当局案をベースにすることなく、協議会で出された意見を反映させていきたい」との発言のとおりと理解している。また、関係者からの意見聴取が必要となった場合は、協議会設置要項の定めに従って対応していく。

#### 語句説明

#### 静岡大学将来構想協議会

地域の課題に協働して取り組み、その成果を共有することを通して、静岡大学の次の時代の教育研究と静岡市のまちづくりに活かし、大学と地域の発展向上につなげるため、静岡大学と静岡市が共同して設置した協議会。

#### 語句説明

#### Park-PFI制度

平成29年の都市公園法改正により新たに設けられた、飲食店、売店等の公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」。

### 自治会・町内会の活動支援

質問者 井上 智仁 (公明党)

自治会活動に対する課題をどう捉え、どのような支援を行っているか。

**【答弁】** 課題は少子高齢化や人口減少等による担い手不足や多様化・複雑化している問題、例えばマンション等によるコミュニティの希薄化や在住外国人との共生等があると考えられる。課題を踏まえた支援としては、地域課題の解決に取り組む講座である地域デザインカレッジを開講し、まちづくりを担う人材養成に取り組んでおり、修了生の中には、自治会と連携し、高齢者の外出や家具の移動等日常生活をサポートする「ちょこっと・ボランティア」の活動を始めている方もいる。加えて様々な地域課題の解決に取り組む好事例を発表する「しずおか自治取組発表会」を開催し、学び合いと情報共有の機会を提供している。今後も新たな支援策等を検討していく。

課題を踏まえた支援としては、地域課題の解決に取り組む講座である地域デザインカレッジを開講し、まちづくりを担う人材養成に取り組んでおり、修了生の中には、自治会と連携し、高齢者の外出や家具の移動等日常生活をサポートする「ちょこっと・ボランティア」の活動を始めている方もいる。加えて様々な地域課題の解決に取り組む好事例を発表する「しずおか自治取組発表会」を開催し、学び合いと情報共有の機会を提供している。今後も新たな支援策等を検討していく。

### 廃棄物減量等推進員制度の推進

質問者 井上 恒彌 (自民党)

廃棄物減量等推進員の活動を進める上での課題と今後の取組は。

**【答弁】** 新たに推進員となった方がどう活動すればよいか分からないこと等により生じる推進員ごとの活動の差の解消と、推進員が推薦されていない世帯数の少ない自治会等における市と市民のパイプ役の確保が課題である。

そこで、推進員ごとの活動の差を解消するため、活動報告会や勉強会を通じ活動事例の紹介や意見交換などを行っている。しかし、地域が抱える課題は様々であるため、今後は新たに就任された方に、市職員が地域の実情にあった助言をすることで活動を支援していく。また、推進員の推薦がない自治会等に対しては、職員が直接会長宅を訪問し、制度の趣旨や活動内容を説明し、推進員を推薦していただけるよう引き続き働きかけていく。

### 県道清水富士宮線の整備状況

質問者 稲葉 寛之 (志政会)

中部横断自動車道へのアクセス道路となる県道清水富士宮線の整備状況は。

**【答弁】** 当該道路は、清水港と中部横断自動車道を結ぶアクセス道路として、国道1号静岡清バイパスから清水いはらインターチェンジまでの3.8km区間の整備を実施している。

平成25年度から順次部分供用を開始し、令和2年内には、国道1号静岡清バイパスから庵原球場東側いはら橋交差点までの2kmを供用する見込みで、この区間の渋滞解消等に地域の皆さんからも期待が寄せられている。

いはら橋交差点から清水いはらインターチェンジまでの残りの1.8kmについては、4年度の供用を見込んでいる。全線が開通することで、清水港と甲信越地方とのネットワークが大幅に強化され、交流拡大、物流強化など整備に伴う大きな効果が期待される。

### 公園の新しい活用と誰でも利用しやすい公園の整備

質問者 佐藤 成子 (志政会)

民間事業者のアイデアを活用するPark-PFI制度の導入等、公園の新しい活用とは。また、SDGsにも合致する障がい者等誰でも利用しやすい公園の整備状況は。

**【答弁】** 公園の新しい活用として、民間活力の導入や公園の活用の幅を広げるため、平成30年4月に静岡市都市公園条例を改正し、新富町公園に放課後児童クラブ、田町公園にこども園の設置を許可して、子育て世代の公園利用促進を図った。令和2年度には城北公園にPark-PFI制度を導入し、公園内に駐車場完備のカフェ等、憩いやにぎわい創出が期待できる施設を設置していく。

また、誰でも利用しやすい公園となるよう、新規の公園の整備だけでなく、段差のない園路や多目的トイレに改修するなど、バリアフリーに配慮した公園づくりを進めている。

#### 語句説明

#### 静岡県中央新幹線環境保全連絡会議

中央新幹線建設事業が環境に与える影響を継続的に確認するとともに、環境保全措置について助言し、環境影響の低減を図る目的で県が設置する、各環境分野の学識経験者と地元代表者からなる会議。

#### 語句説明

#### 静岡市中央新幹線建設事業影響評価協議会

中央新幹線建設事業により生ずる環境等に関する影響について専門的な見地から調査審議する目的で市が設置する会議。

### リニア建設が自然環境に及ぼす影響への対応

質問者 安竹 信男 (創生静岡)

トンネル建設による大井川の流量の減少が上流域の自然環境に及ぼす影響について、これまでの市の対応と今後の対応はどうか。

**【答弁】** 平成26年度から動植物等の環境調査を毎年実施しているほか、トンネル掘削による流量変化のシミュレーションを2回行った。その結果、榎島(さわらじま)より上流部の流量減少と、これに伴う生態系への影響が改めて危惧されたため、トンネル湧水を可能な限り上流域へ戻すようJR東海に求めてきた。

現在、静岡県中央新幹線環境保全連絡会議で水量等の議論がなされており、JR東海は、トンネル湧水の戻し方の詳細な計画を本市に示すことができていない。そのため、今後の会議等の議論を踏まえ、静岡市中央新幹線建設事業影響評価協議会委員の意見を聞きながら、JR東海に必要な対応を求めていく。

### JR静岡駅周辺の整備

質問者 寺尾 昭 (共産党)

JR静岡駅、駅前広場内の交通混雑等、現状の交通環境に対する課題をどのように捉え、対応するのか。

**【答弁】** 北口駅前広場の課題のうち、特に大きな課題である送迎車両とタクシーが集中することで生じる交通混雑の解消には、現在、混雑のピーク時間の実態などを調査・分析するとともに、交通管理者との協議を進めており、今後は駅前広場内の車線の見直しなど、交通環境の改善に向け取り組んでいく。

また、平成5年度に暫定整備した南口駅前広場は、北口と同様の交通混雑の解消に加え、観光バスの停車スペース不足への対応といった交通手段の接続機能の強化が大きな課題であり、駅前広場の立体化や拡張の可能性について、関係地権者や関係機関と協議・調整を行いながら機能の充実に向けて検討していく。



田町公園に設置されたこども園



バリアフリーに配慮したトイレ